

No.73

すくらむ

2009.7発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

今回は、地域相談支援事業についての報告です。

- 学校説明会
- 子育て・教育相談会（巡回教育相談会）

P2

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業

- グランドモデル地区 永平寺町の取組

P3

特別支援教育あらかると

- 幼稚園教諭研修の取組について
- 高機能自閉症青年の行動変容における自覚の大切さ

P4

シリーズ「学校・学級紹介」

今回は、福井県立嶺南東養護学校中学部からの発信です。

センター業務から

地域相談支援事業

就学の手続きに関する情報提供や保護者の相談会を行っています。

学校説明会 約130名が参加

この事業は、就学相談活動の一環として、保護者や関係者へ就学の手続きに関する情報提供や特別支援教育の啓発を目的に、毎年5月に開催しています。特別支援学級や通級による指導について、県教育庁高校教育課特別支援教育室主任が説明を行いました。また、11校の各特別支援学校の教育相談担当者から各校の教育活動等の紹介が行われました。嶺北会場では、今年度は各特別支援学校の教材や教具などを展示し、参加者に見ていただきました。



（展示の様子）



子育て・教育相談会（巡回教育相談会）

この事業は各市町の教育委員会との共催で、教育・医療・福祉等関係機関の協力を得て、それぞれの分野の専門家と保護者が相談をする会です。主に発達に遅れがあるお子さんの就学についての相談や、学習面や行動・対人面などに気がかりなことがらがあるお子さんの養育についての相談を行っています。昨年度は、右表のように90名の参加があり、特に行動面に関する相談が多くありました。これまでは「巡回教育相談会」という名称でしたが、今年度からは「子育て・教育相談会」と改めました。今年度は10回実施予定で、3回は終了しています。開催日はいずれも土曜日です。

幼児	39名
小学生	38名
中学生	13名
計	90名

今後の相談会

（嶺北会場）	9月26日（土）：特別支援教育センター	10月24日（土）：高松公民館
	10月31日（土）：アイアイ鯖江・健康福祉センター	11月14日（土）：大野市文化会館
	11月28日（土）：特別支援教育センター	
（嶺南会場）	10月 3日（土）：小浜市中央公民館	1月30日（土）：パレア若狭

お申込み・お問い合わせは、嶺北地区は特別支援教育センターに、嶺南地区は嶺南教育事務所特別支援教育課へ御連絡下さい。

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業 グランドモデル地区 永平寺町の取組

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業

「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」は、これまでの「特別支援教育体制推進事業」を発展的に見直し、特別支援教育のさらなる体制整備を総合的に推進する事業です。発達障害を含め障害のある幼児児童生徒の支援のため、本県においても、幼稚園、小・中学校、高等学校の支援体制整備、学生支援員の活用、個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成の推進、グランドモデル地区の指定などが行われています。

グランドモデル地区

「グランドモデル地区」とは、発達障害を含む障害のある子どもの乳幼児期から成人期にいたるまで一貫した支援方策について、特に重点的に推進する地域のことです。グランドモデル地区においては、教育委員会はもとより、福祉・労働等と連携しながら様々なレベルからの一貫した支援を図り、他の地区のモデルとします。福井県では、永平寺町が指定されています。



永平寺町の取組

昨年度、乳幼児期から成人期までの医療、福祉、教育機関等の支援を継続させるために、下記の方々を委員として「あさがお手帳」と称する子育て応援手帳（A5判57ページ）を作成しました。

清水 聡氏	福井県立大学	高澤千工子氏	永平寺町福祉保健課
中井 昭夫氏	福井大学医学部	若泉 啓子氏	永平寺町子育て支援課
松山 健司氏	福井県特別支援教育センター	野路 昌美氏	永平寺町松岡小学校
山下 敬子氏	福井県立盲学校	西沢 順子氏	永平寺町志比小学校
岩井 秀夫氏	福井県教育庁高校教育課		



今年度より、新生児保護者に対して、「赤ちゃん訪問（生後2、3か月）」や、「育児相談（生後3、4か月）」などの機会をとらえて配付します（3歳児健診時にも配付）。また、将来、個別的教育支援計画や個別の指導計画を綴ることができるファイルも、手帳とあわせて配付します。今後は、実際に使っていただきながら、手帳の内容や効果的な活用方法等について検討していくことになっています。この取組については、その成果や課題等を公表する予定です。将来的には、永平寺町での取組の成果を他の市町に広めていきます。

あさがお手帳は、保護者の子育てを応援する手帳です。保護者がこの手帳を持ち、記入していき、関係者間で一貫した情報を共有することになります。お子さんについて気がかりなことがあれば、この手帳の情報をもとに、関係機関（保育園、幼稚園、小・中学校、専門機関など）と相談します。

あさがお手帳

支柱をたよりどこまでも伸びようとするアサガオのように、温かなまなざしで、お子様のすこやかな成長を応援していこうと「あさがお手帳」と名付けられました。手帳は、右のような内容で構成されています。



お子様の基本情報

- 名前と名前の由来
- 誕生の記録
 - ・生年月日
 - ・分娩状況
 - ・在胎
 - ・体重、頭囲、身長
 - ・その他の特記事項
- 家族構成

成長の記録

- 生育メモ、発達の記録
- 所属の履歴（幼稚園、小・中学校等）
- 病気・ケガ・予防接種などの記録
- 保健福祉支援履歴（各種健診のメモなど）
- 相談支援履歴（各園・学校・関係機関など）

気がかり相談用シート

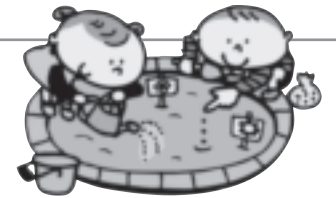
- 各支援機関一覧（県や町の相談機関）
- 生育・発達気がかりチェックシート
- いじめチェックシート
- 気がかり情報交換用シート
- 相談や支援の記録

特別支援教育 あらかると

幼児期と青年期の特別支援教育に関する体制の整備は、小・中学校に比べて少々ゆっくり…のスタートとなっていますが、少しずつ取組が進んでいます。そこで今回は、幼児期と青年期の支援について取り上げます。

幼児期に関しては、私立幼稚園協会の取組の一部を紹介します。また、青年期については、当センターの研修や協議会において講師や助言者として御協力いただいている県立大学の清水 聡先生からお話をうかがいました。

幼児教育の現場から…



幼稚園教諭研修の取組について

平成20年度、私立幼稚園協会主催の幼稚園教諭研修では、1年間にわたって、研修者の園での取組についての実践研修が行われました。幼児教育に関する今日的課題を踏まえ、『実践—省察—再構成』のサイクルをとおして、教員の実践的力量を形成しようとするものです。その中で、特別支援教育に関する講義や、発達障害児へのアプローチ等も取り上げられました。『気になる子どもへの援助を考える』『友だちとのコミュニケーションの取り方が気になる子へのかかわり』等、個々の事例をとおして、小グループでの検討がなされました。

このように、私立幼稚園でも特別支援教育に関する話題が取り上げられ、支援の方法の検討や環境整備が進んでいます。

本年度もこの事業が行われ、当センターも年間をとおして協力します。

思春期・青年期の支援について…

『高機能自閉症青年の行動変容における自覚の大切さ』

福井県立大学学術教養センター教授 清水 聡 氏



本稿では、知的に遅れの無い、いわゆる「高機能型」自閉症青年の行動変容について、最近考えていることをまとめてみた。自閉症の人の中心的な問題である社会性の障害に対するアプローチとして、高機能型自閉症児の場合は、まず「明示されている」対人関係のルールの理解から始めて、その次に「暗黙の了解」を理解する段階に進む。その際には、「経験から学びなさい」ではなくて、「このように振る舞ったり答えたりするのが社会のルールだ」と、外付けで教えるのが有効だとされている。私もそれはその通りだということを相談の経験から実感している。ところが、思春期・青年期に至るとこのようなやり方だけではうまくいかない例も経験する。それまで周囲の大人が言うことに素直に従っていたものが、「分かっているけどしないんだ」となったり、被害的感情が強くなり、周囲からの助言はとりあえずすべて拒否となったりする。このような場合、生じている不適応を改善して適応的な行動を獲得するためには、本人が前向きになって「自分のこういう行動はよくないので、努力して変えていこう」と自覚することが大切になる。そして自覚的になってもらうため有効な手法として、本人のことを認めるといがあるのかなと思う。本人の言い分に対して、最初から「そのやり方はダメだ、その代わりにこうすべきだ」と決めつけずに、とりあえずは肯定的に受け止めて、本人なりの思考方法を把握した上で、「あなたの考えはよく分かったが、この部分はこういう風に変えるのがよいんじゃないでしょうか」などと持っていくようにするのである。本人の言い分を受け止めては少しずつ返すの繰り返しの中で徐々に意識変容を図り、行動変容につなげていくこのやり方は、成果も少しずつしか現れず、非常に根気の要るものである。しかし、いったん自覚的になりさえすれば、「本人の分からないルールを外側から教えていく」という本来的な助言が可能になってきて、その後のステップに進みやすくなる。実際に、本人自らが自分の行動を変えていきたいと思って相談に来られるケースはスイスイと話が進んでいくようである。

福井県立嶺南東養護学校 中学部

中学部では作業学習で「空き缶つぶし」を、また総合的な学習の時間に「空き缶回収活動」を行っています。今回はこれらの取組について紹介します。

「空き缶つぶし」

平成14年度から重度・重複障害、肢体不自由の生徒の作業学習(または自立活動)として実施しています。生徒や教員の家庭から回収されたアルミ缶を、重度・重複障害の生徒が手動式の空き缶つぶし機でつぶし、さらに、それを肢体不自由の生徒が空き缶回収機を用いてつぶすという分業体制で処理しています。生徒の実態に応じて様々な補助具を用いて取り組んでいるので、各活動場面において、生徒それぞれが成就感を味わうことができます。



「空き缶回収活動」

環境教育・地域交流を目的として、平成20年度より総合的な学習の時間に取り組んでいます。全員で年に2～3回、地域の施設や企業、商店等4か所に行って回収を行い、その後生徒の手で水洗いされ、「空き缶つぶし」の学習に用いられています。回収先には予め依頼をするので、どこでも、回収日に合わせてアルミ缶を集めておいて下さいます。中には、生徒たちが持ちきれなかった空き缶を、学校まで運んで下さる方もおられます。この活動では、アルミ缶の回収がエコにつながることで、地域の方との交流が持てること、地域の状況を理解したり交通ルールを学んだりすることができます。生徒たちは恥ずかしそうにお礼を言ったり、たくさん缶の入った袋を協力して学校まで運んだり等、頑張っています。

これら二つの活動を、集める→洗う→つぶす→リサイクル業者へという全体の流れとしての理解を深めるために、今年度は総合的な学習の時間と作業学習等の連携による実践として位置づけ、目的、内容、活動の見通しのもとせ方等について検討しました。その結果、事前にガイダンスを行って空き缶回収～空き缶つぶしまでの流れを伝えること、職場見学とタイアップして自分たちで納品をすることにしました。このことにより、生徒自身が活動全体を見通して取り組めるようになり、また活動意欲の向上にもつながっています。

研究発表会のご案内 発表者を募集しています！

期日：平成22年2月10日（水）
会場：福井県立大学交流センター

お知らせ

平成21年度特別支援教育関連研究大会等

第31回 東海北陸地区特別支援教育研究大会（静岡大会）

8月6日（木）～8月7日（金）

第31回 福井県養護学校教育研究大会

分科会 8月11日（火） 福井東養護学校 他

全体会 10月 1日（木） 福井東養護学校 他

第48回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会（山形大会）

10月29日（木）～10月30日（金）

福井県特別支援教育振興大会・青空教室

11月 8日（日） プラザ萬象（敦賀市）

第55回 福井県特別支援教育研究大会（奥越大会）

11月13日（金） 勝山市教育会館他

福井大学教育地域科学部附属特別支援学校教育研究集会

11月27日（金） 福井大学教育地域科学部附属特別支援学校

編集後記

今回の「すくらむ」では、永平寺町の「あさがお手帳」の取組を紹介しました。保護者の子育て支援や教育、福祉、労働等と連携するために役立つことが期待されます。また、発達障害のある方の支援を進めていく上でのポイントについて掲載しました。

当センターでは「すくらむ」についてみなさんのご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第73号

発行日 平成21年7月15日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL(0776)53-6574 FAX(0776)52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL http://www.fukuisec.jp
福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL(0770)56-1095 FAX(0770)56-1391
敦賀駐在 TEL/FAX(0770)24-0421
印刷所 株式会社エクシート